

水とともに生きる私たち

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

中辻 美咲

私はこれまで、水について深く考えたことがありませんでした。蛇口をひねれば当たり前のように出てくるものだと思っていたからです。しかし、身近な環境の変化や学校での授業を通して、その考えが少しずつ変わっていきました。

私の家の近くにある大淵池では、最近、晴天が続くと水がほとんどなくなってしまう。昔はいつ見ても水があり、魚釣りをしている人の姿も見られました。しかし今では、池の底が見えるほど水が減っている日もあり、その様子を見たとき、衝撃を受けました。水がなくなつた池はどこか寂しく感じられ、「なぜこんなに水が減っているのだろう」と疑問に思いました。そして、これまで当たり前にあると思っていた水も、環境によつて簡単に変わってしまうのだと実感しました。

その後、学校の探究活動で水について学び、

実際に琵琶湖の水質を調べる体験をしました。琵琶湖の水をパックテストで調べた結果、数値は「㊦」で、湖の水にやや有機物などの汚れが含まれている状態であることが分かりました。一見きれいに見える水でも、実際には見えない汚れが含まれていることに驚きました。

この結果から、水の中に含まれている見えないうれが、水質に大きく関わっていることを実感しました。また、このような水の状態は、ここに住む生き物にも影響を与えていると知りました。琵琶湖にしか生息していないビワコオオナマズは、水質の変化によつて数が減つていくといわれています。水が汚れることで、生き物が住みにくくなり、生態系のバランスが崩れてしまう可能性があります。

こうしたことから、人間の生活と水、そして生き物の暮らしが深く関わっているのだと実感しました。

さらに、これまでは雨が降ると、前髪が崩れたり、服が濡れたりして憂鬱だと感じていまし

た。しかし、大淵池の変化を見てからは、雨は大切であり、私たちの生活や自然を支えているものだと思えるようになりました。

水は当たり前にあるものではなく、環境や人間の行動によつて大きく変わるものです。だからこそ私は、これからは日常の中で水の使い方を見直していききたいです。例えば、寒いときはついシャワーを出しっぱなしにしてしまうことがありますが、その時間を少しでも短くするように心がけたいです。歯みがきのときも、水を流しっぱなしにしないようにしたいです。こうした一つ一つは小さなことかもしれませんが、積み重ねることによって水を大切にすることにつながると思います。これからは、水を身近で大切なものとして考えながら生活していきたいです。